

文化学園文化祭視察報告

NACS 東日本支部標準化を考える会は、2016年11月5日に、会員3名で学校法人文化学園文化祭を視察した。子ども服のJISについての当研究会作成資料に注目した吉村とも子氏（文化服装学院テキスタイル関連研究室講師）から、平成27年11月2日～4日の文化祭において、資料の使用（展示や配布）の依頼があり連携が実現した。当会が進めてきた、標準化活動の普及・啓発に関して、教育機関との協働が具体化した事例である。

今回の視察は、昨年につき2回目となる。

文化服装学院アパレル品質管理実習室と文化・服装形態機能研究所・グローバルビジネスデザイン科などを視察した。

視察1：文化服装学院アパレル品質管理実習室

アパレル品質管理実習室のテーマは「子ども服の安全性」である。吉村とも子氏は、昨年より「子ども服の安全性」について取り組んでいる。



（注）黄色い三角の！は規格外。



青い丸にサムズアップは規格適合。



当実習室では、子ども服のヒモの安全規格であるJISL4129の説明や各国の子ども服の安全についての取り組み、危険なヒモのついた子ども服と安全性を工夫したデザインの子どもの服の実物の展示に加え、JISL4129に適合した洋服であることを表示した事業者の実例も展示されていたが、JISL4129適合表示は、まだ一部でしか行われていないとのことである。



その他には、着用した人の安全性を高める高機能ファスナーとして、「暗闇でも人目につく蓄光素材のファスナー」や、「ファスナーを上まで閉じて、肌を挟み込まないガード付ファスナー」、この秋発売予定の「8 kg以上の付加がかかると瞬時に開くファスナー」などが展示されていた。

洋服に使用するファスナーは、スライダーと呼ばれるファスナーを開閉するために引っばる部品を上まで引っばり上げると、ファスナーが開かない仕組みになっており、スライダーを下に引っばらない限りファスナーは開かない。

このため、通常のファスナーを使用したフード付きで前をファスナーで開閉するデザインの服（ジップパーカー等）は、フードが何かに引っかかり子どもが宙づりになった時、ファスナーは閉じたままとなり窒息の危険があった。

吉村氏は、「8 kg以上の付加がかかると瞬時に開くこのファスナーは、スポーツ選手のトレーニングウェア用に開発されたものだが、子ども用ジップパーカー等に使用すれば、子どもの頭の重さでスライダーが左右にはずれてファスナーが開くので、子どもを窒息の危険から守ることができる。」と考えている。なお、はずれたスライダーは再びファスナーにはめることができるので、何度でも使用できる。



当実験室には、一般財団法人日本交通安全普及協会の規格で2016年12月策定予定のJATRAS 001 児童向け高視認性安全服の展示もあった。これは子どもが通学や遠足などで外出する際に着ると、遠くから見ても目立つ反射ベストで、素材に防護服 JIST8127 と同じ蛍光生地と反射材を使用している。JIST8127 は大人サイズしかなかったため、児童向け高視認性安全服 JATRAS 001 は、子どもの事故低減に期待されている。アパレル品質管理実習室と一般財団法人ニッセンケン品質評価センターが学園祭企画として、同日開催したセミナー「安全を着る一子ども服の3つのチェックポイント」の質疑応答でも、参加者からデザイン性などについて活発な意見が出された。

JATRAS 001 は、JISL4129 を引用するとしている。

http://jatras.or.jp/image/jidou_anzen_fuku.pdf



視察 2：文化・服装形態機能研究所

文化・服装形態機能研究所のテーマは「進化する『ファッション』」である。当研究室では、視覚障がい者が自分一人で着ることができるよう表裏上下すべて着用可能なジャンパーや、車椅子使用者のためのスカートなどを考案している。伊藤由美子教授は 2013 年 10 月、衣服をつくるための「体型測定方法及び体型測定システム」で特許を取得している。

今年は、10 月 10 日に六本木ヒルズで開催したバリアフリー・ファッションの祭典『バリコレ 2016』のために、3 人の 2016 年パラリンピック日本代表選手が着用する衣装を制作し、この衣装を展示していた。

その衣装は、ファッションショーに出演した 3 人の選手の体形を「体型測定方法及び体型測定システム」で測定し、美しさと機能性を兼ね備えたデザインとなっていた。衣装の柄は 2020 年東京パラリンピックの市松模様をモチーフにして、当研究室が生地の染色から手掛けたとのことである。このファッションショーの様子は、11 月 6 日に NHK の E テレのテレビ番組「バリコレ 2016 前編」で放送された。<http://www6.nhk.or.jp/baribara/lineup/single.html?i=312#top>

これらの研究は、高齢者向きのズボンやシャツやタイツ等で、着やすさと着心地などを追求した商品作りにも応用され、企業とコラボして購入しやすい価格で製品化しているとのことである。

当研究所デザインの衣装が、2020 年日本代表選手のユニフォームに何らかの形で採用されたと考えると、夢がさらに広がる。

視察 3：グローバルビジネスデザイン科

近年できた学科で、企画立案・実施やディレクションはもとより、グローバル時代をリードする経営的発想を持った人材育成を目的に開設された。世界を舞台に展開するファッション関連企業の総合職、企画職（ディレクター・マーチャンダイザー・バイヤーなど）。また、個々の可能性をビジネス展開する起業家などを目指している。ファッションデザインの技術を持った、新しいタイプの起業家の誕生が期待される。

以上